

I P M実践指標モデル（畑わさび）

| 分類       | 管理項目          | 管理ポイント  | 点数   | チェック欄    |          |          |
|----------|---------------|---|--|----------|----------|----------|
|          |               |   |  | 昨年度の実施状況 | 今年度の実施目標 | 今年度の実施状況 |
| 予防       | 病害虫・雑草の発生しにくく | ほ場内、周辺の除草（必）  | 病害虫の発生源となるほ場内やほ場周辺の雑草を除去する。  | 1        |          |          |
|          |               | 健全苗の定植（必）   | 定植苗は生育がよく病害虫の発生加害のない健全な苗を使用する。   | 1        |          |          |
|          |               | 施肥管理  | 土壌診断を受け、土壌pH等を矯正し、適切な施肥を行う。  | 1        |          |          |
|          |               | ほ場の選択   | 水はけの良いほ場を選択する。   | 1        |          |          |
| 判断       | タイミングの判断      | 気象情報の把握   | 気象情報を把握し、防除の要否を判断する。また、適期防除に心がける。  | 1        |          |          |
|          |               | 病害虫の観察  | ほ場での病害虫の発生状況を確認し、防除に活かす。   | 1        |          |          |
|          |               | トラップの設置   | 黄色粘着トラップ等によりほ場の害虫の発生动態を確認する。   | 1        |          |          |
| 防除       | 耕種的防除         | 連作の回避、輪作  | 根こぶ病などの連作障害を予防するため、アブラナ科以外の作物と輪作を行う。   | 1        |          |          |
|          |               | 発病株・残さの処理（必）  | 菌核病等の発病株は見つけ次第、早期に抜き取ってほ場外に出し、適切に処分する。残さも同様に処分する。                            | 1        |          |          |
|          | 生物的防除         | 性フェロモン剤や生物農薬の利用   | 適用のある害虫に対して、性フェロモン剤の利用や、B T（バチルス・チューリンゲンシス）剤、ホーベリア・バシアーナ剤などの生物農薬を利用する。       | 1        |          |          |
|          | 物理的防除         | 土壌病害・センチュウ対策  | 太陽熱消毒、熱水土壌消毒、散水蒸気消毒などを行う。  | 1        |          |          |
|          | 化学的防除         | 農薬の使用全般（共通）（必）  | 十分な薬効が得られる範囲で、最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定する（薬剤散布後の残液が出ないように薬液を調整する）。 | 1        |          |          |
|          |               | 散布方法  | 農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。防除は無～弱風時を選んで行う。                            | 1        |          |          |
|          |               | 薬剤の選択   | 土着の天敵に影響の少ない薬剤を選択する。   | 1        |          |          |
|          |               | 散布後の処理  | 散布器具、タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川などに流入しないようにする。                        | 1        |          |          |
|          |               | 気門封鎖剤や非化学合成殺菌剤の利用   | 気門封鎖剤・炭酸水素ナトリウム剤・銅剤などを利用する。  | 1        |          |          |
|          | その他           | 作業日誌（必）   | 各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、使用した農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のI P Mに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。 | 1        |          |          |
| 研修会等への参加 |               | 県や農業協同組合が開催するI P M研修会や防除研修会等に参加する。また、研修会等の内容は、家族や作業員等へ周知し、情報共有する。 | 1  |          |          |          |
|          |               |   |  | 合計点数     |          |          |
|          |               |   |  | 評価結果     |          |          |

\*（必）と記述している管理項目については、必ず管理項目として設定しチェックする。